平和を願い語り継ぐ

連合群馬は、２００５年度の平和活動を６０年の節目の年として平和行動への派遣人数を拡大するなど、取り組みを強化してきました。

６月の平和行動ｉｎ沖縄は２１名、７月の広島親子平和行動は１６名、８月の平和行動ｉｎ広島は２名、平和行動ｉｎ長崎は１４名、９月の平和行動ｉｎ根室は２０名を派遣し、参加者の方々から感想文を書いていただいています。この感想文は語り継ぎの運動に活用していただくため文集にし、各構成産別・地協へ配付する予定です。

今号では、平和行動in広島、長崎、広島親子平和行動の参加者からの感想文を抜粋しご紹介します。ぜひ職場や家庭で平和について考える場をつくっていただきたいと思います。

平和行動 in広島に参加して

女性委員会　金井 亜希子（自治労）

被爆から６０年目の年に、広島を訪れることができました。

１日目の献花、続いて行なわれた献水では照り付けるような太陽の元、炎に焼かれ水を求めて亡くなった方々の想像を絶する苦しみを思い、言葉では表せない哀しみを感じました。

２日目のピースウォークでは真夏の日差しの中、連合広島の方々に慰霊碑、記念碑等を説明していただきながら公園内を歩きました。そこでは被爆者の苦しみや悲しみを二度と繰り返してほしくないという強い思いを感じました。

３日目の式典はたくさんの人々が平和を願い集まった力に驚き、少し安心し、次へと繋げていかなければならないと思いました。

原爆については小学生の頃に読んだ漫画やＮＨＫの特集等で知識はありましたが現地に行って最も感じたのは人々の平和への大きな思いでした。人間が人間を傷つけるようなことはしてほしくないと改めて思いました。

暑い中のピースウォーク

平和学習会を開催します

２００５年連合群馬平和行動の最大のテーマである「語り継ぎ」で今年度の取り組みを締めくくります。

戦争の歴史と平和の尊さを学習し、職場や家庭で平和について話し合う機会をつくるため、積極的な参加をお願いします。

- ◆ 日時：２００５年１０月１５日(土) ９：３０～１１：３０
- ◆ 会場：前橋問屋センター　前橋市問屋町２－２
- ◆ 講師：広島県原爆被害者団体協議会　会長 坪井 直 氏

平和行動 in長崎へ参加して

前橋地協　白石 泰寿（国公総連）

原子爆弾による未曾有の大惨禍を被ってから６０年にあたる今年、「２００５連合平和行動in長崎」へ参加し、原爆の脅威と平和の尊さを、改めて感じることができました。

１９４５年８月９日、広島に次ぐ人類史上２番目の原爆が炸裂し、猛烈な爆風と熱線と放射能により一瞬にして多くの人命を奪い、生き延びた人たちは、６０年を過ぎた今日でも心と身体に癒すことのできない深い傷を負い、原爆後障害に苦しめられています。

平和記念式典当日、爆心地公園内に設けられている中心碑に一人線香を手向け手を合わせていた老婆のことが思い出されます。辛く悲しい経験をしてきた後ろ姿に見えてなりませんでした。

長崎を最後の被爆地にするという思いを新たにし、核兵器も戦争もない世界恒久平和が一日も早く訪れることを願います。

爆心地での折り鶴献納

坪井（すなお） 直さんの話を聞いて（広島親子平和行動）

堀越 和真　小学６年生（前橋地協）

ぼくはこの世から原子ばくだんがなくなってほしいです。もう一回原ばくが降ってきたらどうするのか、考えたくもありません。

原ばく資料館でもいろいろな悲しいことを学びました。特に千羽づるをかざして鐘を鳴らすとすごく悲しくなりました。原ばくをうけたひばく者のはかない叫び、はかない命、それがいっせいに亡くなりました。

直さんの時代の話を聞いて悲しい気持ちになりました。原ばくは人の体と人の心に攻撃したのです。ぼくがもし広島で原ばくのころに生まれていたら、ぼくも原ばくで死んでいたかもしれません。1.2kmの範囲で２万人の人が死んだのです。どうしてこの世にそんな人を殺す兵器があるのでしょう。

坪井さんの話を熱心に聴く参加者

おしまいに、広島は群馬から遠いところで暑かったけど、とても勉強になりました。これからは戦争のない世界を自分たちで作ります。